



食糧増産の先覺者

澤村勝爲と三森治右衛門

「草野村役場三森氏の資料による」

三森家累代 覺書抜抄

慶安も経て承應元年に入り 時の奉行藤澤村助兵衛勝爲殿 水利振興の御着手より永引く を以て御食銀五百石のうち 三百石を納進し水利土木費に 充てられて御進日の通り御着手 日 決す時に承應元年二月十五 日 是より先徳家老方御評議日を 重ね光隆を召し御評議に任 命され御答へ速かに御着手 相成度旨言上し及申候然るに 御城内にては御進の御御進 御の當時なれば甚だ御難を遊 に相成り之を凡そ何百人づつ

住宅 既に二十九戸が竣工

市営住宅使用例が、にらみ工賃側から集約配給 設定された、右は例として非常に感謝され 分譲住宅ともなっている。なお同工業所は藤倉 賃貸一戸建十坪の住 組の指定工場となつており 既に第一期分二十九戸は落成 僅だけが入れれば即時貸付ら れるのでこの條例を設定した ものであるが、第二期分三十 八戸も本月中に着工すること となつて、明春三月まで には百三十戸建設の途となつ ている。ただ建設地を大 層希望者側から提供すること になつて、このがチョットと 悩みの種であるが、住宅難の折 柄大衆にとつてはうれしきこ と、歓迎されている。

市出身喜劇の元老 九郎

喜劇界の元老 九郎 九郎 九郎 九郎

増産に協力 飼料元還配給

農林復興局は先づ飼料から 今般農家の手持ちのトウモロコシの茎やシイモ類の ツルや葉その他乾草等何れでも飼料原料となるもの、供 出に對し還元粉砕配合飼料を 配給することになった。必要 農家は速速なく申込みは多少

下甸の配給 先づ満配

サツマイモも近く 八畝買が及ぼす 市の食糧事情はさきに茨城か らサツマイモ五萬石と豊津か らの早稲米六千俵の入荷をみ

部を別けて着手せしむ。 光隆光隆東西に奔走して夫 々人夫を指圖し其他御進の 材料一切を調達して運搬築堤 の便に供し文山林を伐り竹材 を集め其の着手始めと申す者 は下役人始め藤澤村助兵衛 毎夜床に就かず山林提防等 の邊に夜を明し申候而して盡 事は明け六つ時より夕刻に 終り申の刻より徹夜明け六つ 時に御進を御進することなり 光隆等はこれこそ實に骨身を 砕くるばかりにて候べし、然 るに若し御進に對し理屈を 述べ或は怠たの振舞ある者又 は奉行殿下役に反抗する者等 は手當り次第御捕へ木に縛し て懸してその時を事となへん 方なし並びに光隆に哀願する 者幾人なるを知らず奉行殿は たのほもとと思つたが、 それでもなほ二百乃至三日の 運配である、然し下甸の配給 は近く茨城から八萬石のサツ マイモが入るので先づこのこ ころ満配の見通しが、いたと のうれし、然し下甸十日 分の配給内譯米五百石、サ ツマイモ三萬石の他は粉、 麥等で補うことになつてい

更に之を顧みる限なく甚だ精 相成るに國民共平生に於て禮 節廉恥を辨へず當我機勝手の 者中以上を占めたる様申し受 け候とてその當時の状況の 混雜は前にも述べ置候通り 筆紙に盡され不申候。 時は奉行殿は光隆光隆等の 目論見地圖を變更なされた がため平澤村の横山の所は手 度寛井川の打掛けに當り大雨 の時は勿論之を通過し行かす ば土崩解は免かれずと思ひ、 先づサツマイモ見ようと思ひ、 其の資を投じて工費を助け加 するに慶安三年の大旱を不慮 に思召し只一途に農民の飢饉 を防ぎ領主様にもお所得を増 益々相増りとかく獨立て來 し上下の利益を見んとのお構 りしも水を入れたる時子取付 して水はどしどし夏井川に落 ち行かべしと思ひしが案の通 決して是非の分らざる一人に してはこれなく御進直一方の めに奉行殿も辛勞苦慮をなさ 二人にして克く何事も辨明 された。

平井醫院 三井醫院 開設御披露

平井醫院 小兒科 三井醫院 內科

坂場商會 雜貨商 坂場 正

皮膚科 泌尿器科 江尻醫院

診療科目 舟田義孝 石田公俊 中田三郎

湯本町國民健康診療所